

**〔主の慈しみに満ちたダビデへの契約〕**

ダビデは王として最初の七年六か月の間へbronでユダを治め、三十三年の間、エルサレムでイスラエルとユダの全土を統治し、実に四十年間王位にありました（サムエル下5:4,5）。エルサレムは、山に囲まれた要害でエブス人という異邦人の町でした。ダビデはこの要害を奇襲して陥れ、この町を「ダビデの町」と呼び、周囲に城壁を築き、ついにここに安住することになります（5:9, 7:1）。

このとき、ダビデは主の箱をエルサレムへ運び入れ、天幕の中に安置すると、主の御前に焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげました（6:11）。

そして、ダビデは、「わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ」（7:2）と言い、神の箱のために特別の場所を建築する必要を覚えます。この時、預言者ナタンに「あなたがわたしのために住むべき家を建てようというのか。わたしはイスラエルの子らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、家に住まず、天幕、すなわち幕屋を住みかとして歩んできた」との主の言葉が臨みます（7:5, 6）。これは、まことの神の臨在するところは人の建造物ではないという否定を含みながらも、まことの神、主自ら定められるところに建てられることをかえって、明らかにするものです。

実際に、「ダビデは神の御心にかない、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、神のために家を建てたのはソロモンでした」（使徒言行録7:46）。しかしながら、この時、いわば、ダビデの息子ソロモンの神殿建設の基礎とも言える大切な神の契約がダビデと取り交わされることになります。このダビデへの契約は、「主があなた（ダビデ）のために家を興す。あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。この者がわたしの名のために家を建

て、わたしは彼の王国の王座をどこしえに堅く据える」（サムエル下7:11-13）という、主がダビデとその子孫を祝福されるという慈しみに満ちたものでした。

**〔ダビデへの契約とキリストにある喜び〕**

ダビデは、思いがけないこの祝福に満ちた主の言葉を聞き、感嘆の叫び声をあげて、「主の御前に出て座し」、「主なる神よ、何故わたしを、わたしの家などを、ここまでお導きくださったのですか。……あなたは、この僕の家を遠い将来にかかわる御言葉まで賜りました」と祈ります（7:18以下）。

そして、ダビデは、主なる神がイスラエルを救い出してくださり御自分の民とされたみ業をほめたたえ、エジプトと異邦の民とその神々からイスラエルの民を救い出してくださったことを感謝するのです。そして、神の約束のみ言葉に基づいて祈ることによって、「勇気を得ました」（7:27）と告白します。さらに、「主なる神よ、あなたは神、あなたの御言葉は真実です。あなたは僕にこのような恵みの御言葉を賜りました。どうか今、この（あなたの）僕の家を祝福し、どこしえに御前に永らえさせてください。主なる神よ、あなたが御言葉を賜れば、その祝福によって（あなたの）僕の家はどこしえに祝福されます」（7:28, 29）と祈りは締めくくられます。

実に、このダビデへの契約は、「アブラハムの子ダビデの子」（マタイ1:1）イエス・キリストの降誕という驚くべき神のみ業において、わたしたちの住む世界のただ中に実現しました。使徒言行録13章23節で「神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです」と言われているとおりです。この神の契約にしっかり立って救いの恵みを共に受け継ぎつつ、主イエスに喜びと感謝をささげましょう。（宮武輝彦）

※第25号（6月17日聖書研究）からの再掲載です。

テキスト サムエル記下 7章  
参照カテキズム 子どもカテキズム 問23, 24, 37

### 〔単元のねらい〕

主は神殿の建築を願ったダビデの願いを退けられた。しかし、そこで主はダビデを祝福して、ダビデとの間に契約を結ばれた。神の恵みの契約の恵みを覚えて、喜び感謝しよう。

## 「家を建ててくださる神さま」

サウルとの戦いに勝って、ダビデはようやくイスラエルの王さまになりました。王さまになったダビデは、やがてエルサレムを都とします。周囲の敵はすべて退けられて、ダビデにも平和な毎日が訪れ、レバノン杉でできた大きくて頑丈な宮殿を建てて、そこに住むようになりました。そんなある日のことです。ダビデは預言者ナタンに言います。「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ」(2)。

ナタンは王に言います。「心にあることは何でも実行なさるとよいでしょう。主はあなたと共におられます」(3)。

ダビデは、ふと気づいたのでした。自分は立派な家に住んでいるのに、神さまはそうじゃないということに。

「ああ、なんて神さまに申し訳ないことをしているのだろう。なんて恩知らずなのだろう。神さまは私に恵みをくださったのに、私の方は神さまに何もしてあげていないではないか。」

ダビデはこのように思ったのでした。そこで、ダビデは神さまのための家を建てたいと言い出したのです。そして、神さまに仕えている預言者のナタンに相談したのでした。ナタンは、それは良いことだからしたらよいでしょうと賛成してくれました。

けれども、その夜のことでした。神さまは、このダビデの願いを退けられました。

これはとても不思議なことに思われます。せっかくのダビデからの申し出を神さまは喜ばれず

に、お断りになりました。なぜなのでしょう？

理由の一つは、神さまは人間とは違う方だからです。神さまは人から何かをしてもらわなければ困られるような方ではありません。

ダビデは神さまの恵みにお返しをしようとした。でも神さまの恵みに対して、どんなお返しをすることができるのでしょうか。私たちも、神さまからたくさんの恵みをいただいています。でもではありませんが、お返しすることはできません。

ダビデは神さまのために家を建てると言いました。でもどうでしょうか。神さまがお住まいになる家を、ダビデが建てることができるでしょうか？ 神さまは、私たちの目には見えない聖なるお方です。その神さまのお住まいを造ることは人間にはとてもできないことなのです。

神さまは、美しい宮殿に住むことも、一つの場所にじっとしておられることも、お望みにはならなかったのです。それは、神さまにはもっと大きな計画、もっと大きなお仕事があったからです。神さまはダビデが思ってもみなかった大きな計画をもっておられ、それを成し遂げようとなさっておられたのです。このことが一番、大きな理由だったのです。

ですから、神さまは、ダビデにこうおっしゃいました。「あなたがわたしのために家を建てるとは、わたしがあなたのために家を建てるとは、わたしがあなたの王国を確かなものとする。あなたの子孫から救い主が生まれます。あなたの国はこれから先もずっと続きます」。

神さまのお仕事は、イスラエルだけではなく、この世界に、神さまの救いが実現していくということでした。そして、神さまはこの約束どおりに、ダビデの子孫から救い主であるイエスさまを誕生させられました。

神さまは今も、大きな救いの計画をもっておられ、救いの御業を行なっておられます。

ダビデは、神さまのために家を建てたいと言ったのですが、神さまに断られてしまいました。逆に、神さまからは、「わたしはあなたのために家を建てる。救い主があなたの子孫から生まれる」、そういう約束を聞くことになりました。ダビデはせっかくの申し出を断られて、ショックだったでしょうか。そうではありません。ダビデはこのことを喜びました。神さまが思っていたよりもずっ

とずっと大きな方であることがわかってうれしく思いました。そして、神さまがこの世界に救い主をお与えになろうとしていることを知ってうれしかったのです。ダビデは、このことを感謝してお祈りをしました。

神さまも、このダビデの祈りを聞いて、とても喜ばれたでしょう。家を建ててもらうことよりも、神さまはこのダビデのお祈りを喜ばれたに違いありません。

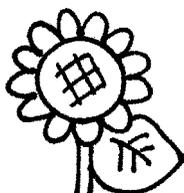
私たちもみんな神さまからたくさんの恵みをいただいています。神さまの恵みを数えてみましょう。神さまに感謝しましょう。お祈りしましょう。きっと天にいらっしゃる神さまはみんなのお祈りを喜んでくださいます。 (橋谷英徳)

---

[今週の暗唱聖句] サムエル記下 7章11, 12節

主があなたのために家を興す。あなたが生涯を終え、  
先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、  
その王国を揺るぎないものとする。

---



## 〈ねらい〉

神様は、私たちが考えているよりも、もっともっと大きなお方であることを、御言葉から考えましょう。

## 〈展開例〉

皆にとって、神様って、どんなお方だろうか？  
(少し考えてみる……)

実は神様というお方は、ぼくたち私たちが考えるよりも、ずっとずっと大きなお方なんだね。

ダビデが王様になって、イスラエルはとても安定していました (1)。

「王は預言者ナタンに言った。『見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ。』」 (2)。

ダビデは、自分だけがrippana家に住んで、神様のために大きなお住まいがないので、ぜひ神様のために素晴らしいお住まいを建てようとしたのでした。ダビデと一緒にいたナタンという人もそのことを勧めたのですが、神様は「あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。この者がわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をどこしえに堅く据える」 (12-13) と言われました。

結局は、ダビデ王の子供であるソロモン王が神のお住まいである神殿を建てることになります。でも、よく考えてみれば、神様は美しい神殿に住むことも、一つのところに、ずっとおられることもありません。神様は一つところにしぼられることは絶対にないのです。

それは神様には、もっともっと大きな御計画が

あったのです。それがこの御言葉です。

「わたしは慈しみを彼から取り去りはしない。あなたの前から退けたサウルから慈しみを取り去ったが、そのようなことはしない。あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にどこしえに続き、あなたの王座はどこしえに堅く据えられる。」 (15-16)

神様は、ダビデの王国がずっと続くだけではなくて、ダビデのずっとずっと後の子供から、救い主イエス・キリストがお生まれになることを約束されたのです。

「神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。」 (使徒言行録13:23)

そして、神様はお約束の通り、ぼくたち私たちのために、救い主、イエス・キリストを生まれさせてくださったのです。

ぼくたち私たちに対する神様のご計画は色々あると思います。ぼくは将来こうなりたい、わたしはこれになりたいと、色々あると思います。でも神様は、ぼくたち私たちのために、一番良いことをしてくださるのです。神様を信じていきましょう!!

神様は素晴らしいことをしてくださるのです!!

## 〈お祈り〉

天の父なる神様。ぼくたち私たちの思いを超えて素晴らしいことをしてくださる神様を信じていることができるようにしてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



**〈ねらい〉**

主の神殿建築を願うダビデを祝福し、契約を結ばれた。契約の真実を喜ぼう。

**〈展開例〉**

サウル王も、ダビデの大親友であったヨナタンも、ペリシテ軍との戦いで死んでしまいました。イスラエルの王様になり、神様の祝福を賜ったダビデは、エルサレムに移り住みました。そして、この町に住むすべての人が神様を中心にして、礼拝を中心に生活できるように願いました。

しかし、よく見れば、ダビデ自身はレバノン杉で作られた立派な家に住んでいるのに、神様が与えてくださった十戒の入った契約の箱をおさめているところは、みすばらしい幕屋（テント）でした。そこで、ダビデは神様のために立派な神殿を建てようと思いましたが、預言者を通して伝えられた神様の言葉は、ダビデの申し出を断るものでした。

神様は人の建てた家に住むことはなさらない、とおっしゃいました。そして、それどころか、神

様の方から、イスラエルとダビデのために家を興し、ダビデの王国がその子孫にいたるまで平安に、安らぎのうちに過ごすことができるように、約束（契約）してくださいました。

このダビデの子孫からイエス・キリストがお生まれになります。この方がまことの神様の神殿を建ててくださいました。キリストの十字架と復活を土台とするキリストの教会です。キリストを礎として、神様を礼拝する神の民が世界中に起こされ、わたしたちもその一枝として、今日も礼拝をささげています。神様は人の思いを遥かに超えて、目に見える立派な神殿でなく、目には見えませんが世の終わりまで続くキリスト教会を祝福する約束をしてくださいました。

**〈お祈り〉**

神様。今わたしたちが毎週通っているこの教会を、ずっと昔から祝福してください感謝します。これからもこのお恵みを忘れないで、真の神様を礼拝することができるよう祈ります。アーメン。

**〈やってみよう〉****○聖書を開いて考えよう**

ばらばらにした聖句を紙で作ります。それらを並べて聖句を完成しましょう。

地上の大いなる者に並ぶ名声を与えよう

わたしは共にいて

あなたがどこに行こうとも

あなたの行く手から敵をことごとく断ち



**〈ねらい〉**

主なる神は恵みに富み、慈しみ深く、忍耐強いお方です。また神の御言葉は真実で約束を忠実に果たしてください。ダビデは篤い信仰をもって神の御言葉を第一とし、すべてを神にゆだね、神を深く信頼し常に賛美と感謝をささげています。神はこのようなダビデを信頼され祝福して、ダビデの子孫によって永遠の王国をたてると約束されます。この約束はダビデの子孫である救い主イエス・キリストがお生まれになることによって実現するのです。

**〈展開例〉**

みんなはお父さんやお母さん、友達、そして色々な人と約束するでしょう。その約束をちゃんと守っていますか。約束を守り責任を果たすことは大変重要なことです。神様もダビデに約束されました。その約束をダビデがどのように信頼し、果たしていったのでしょうか。ダビデの熱心な信仰が今のみんなの平安と喜びにつながっているお話をしましょう。

ダビデは神様の御心にどこまでも忠実で、この成り行きを常に神様にゆだね、良いか悪いかの判断を自分の都合ではなく、神様の御心になっっているかどうかによって決める、神様を畏れ敬う人でした。このようなダビデに対して、神様は、「僕ダビデの手によって、私の民イスラエルを敵の手から救う」「わが民イスラエルを牧するのはあなただ、あなたがイスラエルの指導者となる」と約束されました。

この約束を信じて神様の御心を第一とするダビデは、敵であるペリシテや他の種族と戦って勝利し、イスラエルとユダの全土を統治する王とされます。ダビデは神様に祝福され、神様の約束は実現していきます。このことから明らかになったことは、すべては神様が支配されており、ダビデは神様の御心を実現するために仕える神の器、神様の忠実な僕だということです。

神様はダビデに示された約束に忠実であられました。ダビデもまた神様に忠実に応答し、王位を

獲得し、王権を確立します。そこでダビデは他所にあった「神様の契約の箱」をエルサレムに移し、そこに神様が住まれる神殿を建てたいと神様に願います。しかし、神様はこれを許されません。ダビデは神様から恵みをいっぱいいただいて立派な宮殿に住んでいる、だから、そのお返しに神殿を建てたいと神様に願ったのですが、神様はお断りになりました。何故でしょうか。神様は人から感謝や賛美はお受けになりますが、何かしてもらうことはお喜びになりません。私たちもたくさんの恵みをいただいています、お返しをすることなどとてもできません。まして神様のお住まいを造ることは人間には出来ないことなのです。

神様は、人間にはとても考えられないような大きなご計画を持っておられます。その計画は、すべての人を救い、永遠の命を与え、人間が希望と喜びを持って平安に生きることのできる平和な世界を創り上げることです。そのような神様ですから、人間が考えるように美しい神殿に住んでゆっくりしようなどとは考えておられないのです。

神様はダビデに神殿建築はお断りになりましたが、その願いは汲み取られ「彼の子孫によって永遠の王国を建てる」と約束されました。この約束はダビデの子イエス・キリストがお生まれになることによって実現するのです。そのイエス・キリストの十字架とご復活による福音を信じることによって、私たちは罪赦され、希望を持って平安に生きることが出来るのです。ご復活された主イエス・キリストのお体が神様の神殿であり、それが教会なのです。この教会を通して神様のご計画されている平和な世界が実現していくのです。

これが神様がダビデと結ばれた契約の真実です。私たちは神様のこの約束を信じて歩んでいきましょう。

**〈祈り〉**

神様。神様がダビデと結ばれた契約を実行して、御子イエス・キリストをこの世にお送りください、感謝します。私たちも神様の御心に忠実に従って歩むことが出来ますようにお導きください。

対話の手掛かりとして……。

- ①自分によくしていただいた方に感謝を表わすことは、人間関係を築き上げていくうえで欠かすことのできないものです。もし、お礼を言わず、感謝の意を表わさなければ、相手に対してたいへん失礼にあたります。また、感謝を表わす場合も、それをどのようなかたちで表わせばよいのかが分からなくなることもあります。これくらいで相手に喜んでいただけるだろうか、もっとした方がいいのだろうか。感謝を表わすという行為の中にも、つつい相手の心を気にしてしまうところがあるのです。
- ②そのことが、神さまに対する感謝にも表れてきます。ダビデは若くしてイスラエルの王になりました。自分の命を狙っていたサウルをはじめ敵らしい敵はいなくなり、家も与えられ安心して暮らすことができるようになったのです。ダビデは、神さまの恵みによって、今の自分があることを知っていましたから、神さまに心から感謝したかったのです。具体的には、神の箱を天幕ではなく、立派な神殿の中に置くことでした。自分だけがいい家に住んで、神さまを安っぽい天幕に置いておくことは申し訳ないと思ったのでしょう。ダビデはしっかりと感謝の計画を立てました。神さまのために神殿を建てればきっと喜んでいただけるに違いないと確信したのです。
- ③神さまは、ダビデの感謝の行為をお喜びになられたと思いますが、どうも神さまの御心とはかけ離れていたようです。ダビデは神さまからいただいた恵みに対して、感謝を表わし、お返しすることができるものだと考えました。感謝することによって、自分と神さまとの関係が健全

なものになると、どこかで思い込んでいたのです。もちろん神さまは、私たちの感謝の思いを喜んで受け入れてくださいます。しかし、神さまと私たちの関係は、私たちがどれだけ感謝を表したかで決まるものではないのです。

- ④神さまと私たちの関係を築き上げてくださるのは、神さまご自身です。聖書では、このことを「契約」と言います。しかも神の契約は、この世的な契約とは違います。つまり、私と相手がお互いの関係ではないということです。聖書が語る契約は、いつでも神さまが私たちの方に歩み寄ってくださることによって成り立つものです。今回の「ダビデの契約」と呼ばれる出来事においても、神さまは「あなたのために家を興す」とおっしゃいました。神さまに感謝したいと願ったダビデに、更なる恵みを与えると約束をしてくださるのです(11～13節)。「与えられたらお返しをする」という人間が考える常識を遥かに越えたお方。それが神さまです。
- ⑤では、私たちが神さまに感謝することは無駄なことなのでしょうか。そんなことはありません。27節に、「それゆえ、僕はこの祈りをささげる勇気を得ました」とあります。18節からはダビデの祈りが記されています。その内容は要するに、「神さま、どうかあなたが約束してくださいとおおり、私たちを祝福してください」というものです。神さまに十分に感謝を表わせていないのにもかかわらず、また神さまに祈り求めるなんて厚かましいのではと心配するかもしれませんが、でもそんな心配はいりません。むしろ、益々神さまの祝福を求めてよいのです。神さまの契約の真実に、「アーメン」(真実です)とお応えして、更なる祝福を求めて生きることを、神さまはお喜びになるのです。